



# 米国大学におけるIR活動の実態 ～小規模IR室で働いた経験から～

山形大学 学術研究院 (IR担当)

藤原 宏司

kfujiwara@cc.yamagata-u.ac.jp

*November 28, 2016*

於：東北大学

# 今日の内容

---

1. IRとは？IR室とは？IEとは？
2. BSU/NTC\*（MnSCU\*\*）におけるIR/IE活動
3. まとめとして ～IRを発展させるために必要なこと～

\* BSU (Bemidji State University) とNTC (Northwest Technical College) は、講演者が勤務していた米国ミネソタ州にある州立大学および州立短期大学です。それぞれが独立した高等教育機関（認証評価も別）ですが、大学経営陣やIR室を含む主要部署が共有されています。

\*\* MnSCU (Minnesota State Colleges and Universities) は、7つの大学と24の短期大学で構成されているシステムです。BSUとNTCは、MnSCUに属しています。

**IRとは？ IR室とは？ IEとは？**



# IRについて米国の研究者／担当者は、どう定義したのか

## ■ Saupe (1981)

**Institutional research** is research conducted within an institution of higher education to **provide information** which **supports** institutional planning, policy formation and decision making.

## ■ ThorpeによるIR業務の9分類 (1999)

1. **Planning Support**: **providing information** to **support** planning activities on the campus
2. **Decision Making Support**: **providing information** for decision making
3. **Policy Formation Support**: **providing information** for policy-related issues



出典：藤原 (2015b)

IRに関する重要なキーワード：**情報提供と支援**

# どのような人材が米国のIR室で働いているのか

## 求人情報から見るIR人材に求められている条件

	室長レベル (14件)	スタッフレベル (27件)	合計 (41件)
データベースの知識と経験	79%	93%	88%
統計・データ解析の知識と経験	100%	89%	93%
高等教育機関で働いた経験	100%	93%	95%
コミュニケーションスキル	86%	82%	83%

出典：藤原（2015a）

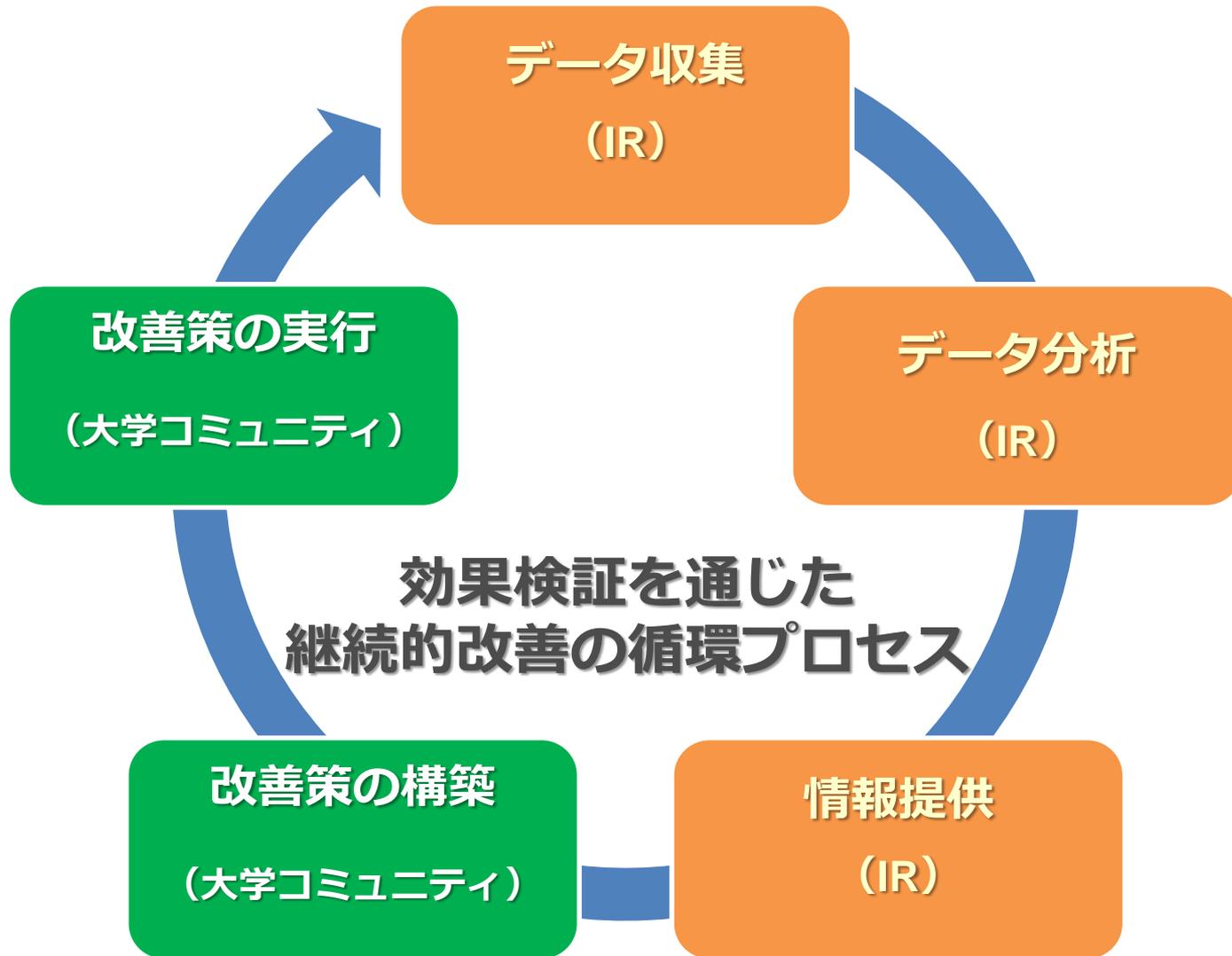
データ：AIR Job Board：<https://www.airweb.org/Careers/Pages/default.aspx>  
(2014.11.1～2014.11.25)

# IRとは？IR室とは？IEとは？（一つの考え方）

---

1. **IR** = 大学の現況を、客観的なデータを用いて分析・説明し、**情報提供等を通じて大学の意思決定や継続的改善を支援**（サポート）すること
2. **IR業務** = 必要な時に、必要な情報を、必要とする依頼者に**提供する業務**およびそのための**データの情報への変換業務**（鳶田ほか, 2016）
3. **IR室** = IR業務を（全学規模で）より**効果的、効率的**に行う部署（藤原・大野, 2015）
4. **IE (Institutional Effectiveness)** = IR機能を活用して**効果検証**を行い、大学として**継続的改善の循環プロセス**を実行すること（藤原, 2015c; 山形大学OIRE）

# IE (Institutional Effectiveness) とは



# BSU/NTCにおけるIR/IE活動



# Calendar of IR Activities at BSU/NTC (抜粋)

---

- **BSU/NTC IR室** : 室員 2 人の小規模なIR室 (OIRE)
  
- **年間を通じてやっていること**
  1. Daily Enrollment Reportの作成
    - Power BIを用いてレポートのアップデートを「ほぼ」自動的にこなっています。
  2. Weekly Prospects/Applicants Reportの作成

## BSU/NTCと日本の大学が違う点

- ✓ 授業料収入が運営予算の2/3を占めます。
- ✓ 入学定員はありません。
- ✓ ミネソタ州立大学機構 (MnSCU) が運用する**大規模統合型データベース (ISRS)** が利用できます。

---

詳しくは、藤原 (2013) を参照して下さい。

# Calendar of IR Activities at BSU/NTC (contd.)

## 秋学期（8月－12月、抜粋）

<u>行っていること</u>	<u>IR業務の関連分野</u>
<ul style="list-style-type: none"><li>• 10th &amp; 30th Day Enrollment Report</li><li>• MnSCU Cost Study</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 大学経営の可視化、効果検証</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>• LibEd Assessment, CCTST, ETS Proficiency Profile</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• アセスメント、効果検証（直接）</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>• Common Data Set</li><li>• Fact Book</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 大学経営の可視化、説明責任</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>• IPEDS</li><li>• Consumer Information Report</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 説明責任</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>• Program Data Book</li><li>• Program Indicators Report</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• プログラムレビュー、効果検証</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>• Internal/External Surveys</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 説明責任、効果検証（間接）</li></ul>

✓ 上記の他に、約100件のアドホックなデータリクエストがあります。

# Calendar of IR Activities at BSU/NTC (contd.)

## 春学期（1月ー5月、抜粋）

<u>行っていること</u>	<u>IR業務の関連分野</u>
• 10th & 30th Day Enrollment Report	• 大学経営の可視化、効果検証
• LibEd Assessment	• アセスメント、効果検証（直接）
• NSSE (BSU), CCSSE (NTC), SSI, Outcome Assessment Survey (NTC)	• アセスメント、効果検証（間接）
• Internal/External Surveys	• 説明責任、効果検証（間接）

- ✓ 外部からのサーベイリクエストとして、HLC, US News, ACT, CIS, College Scope, PEDS, Title II, MCIS, GRE, NSF, NCAA等があります。
- ✓ 上記の他に、**約150件のアドホックなデータリクエスト**があります。

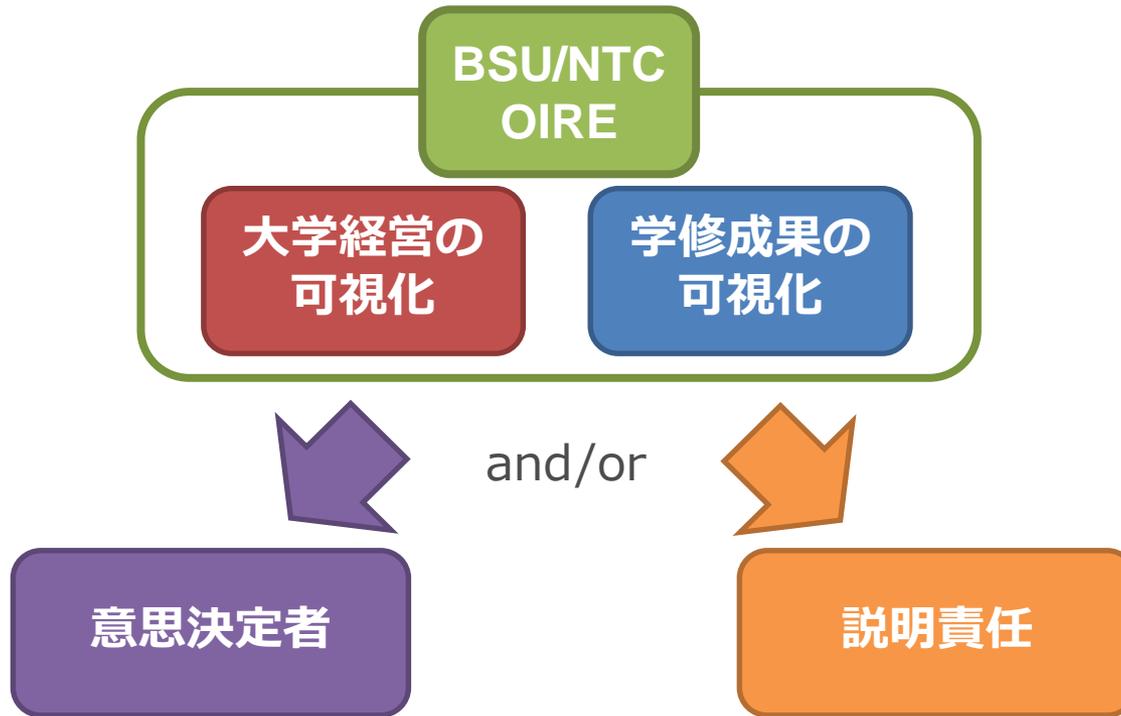
# Calendar of IR Activities at BSU/NTC (contd.)

## 夏学期（6月ー7月、抜粋）

<u>行っていること</u>	<u>IR業務の関連分野</u>
• 新年度（8月から）に向けての準備	• 全て
• LibEd Assessment	• アセスメント、効果検証（直接）
• リサーチ（Retention Analysis, Data Mining, Enrollment Forecasting, Time-to-Degree Analysis, etc）	• 全て
• Internal/External Surveys	• 説明責任、効果検証（間接）

- ✓ 外部からのサーベイリクエストとして、Peterson's, College Board, US News等があります。
- ✓ 上記の他に、**約60件のアドホックなデータリクエスト**があります。

# BSU/NTCにおけるIR活動



## コメント

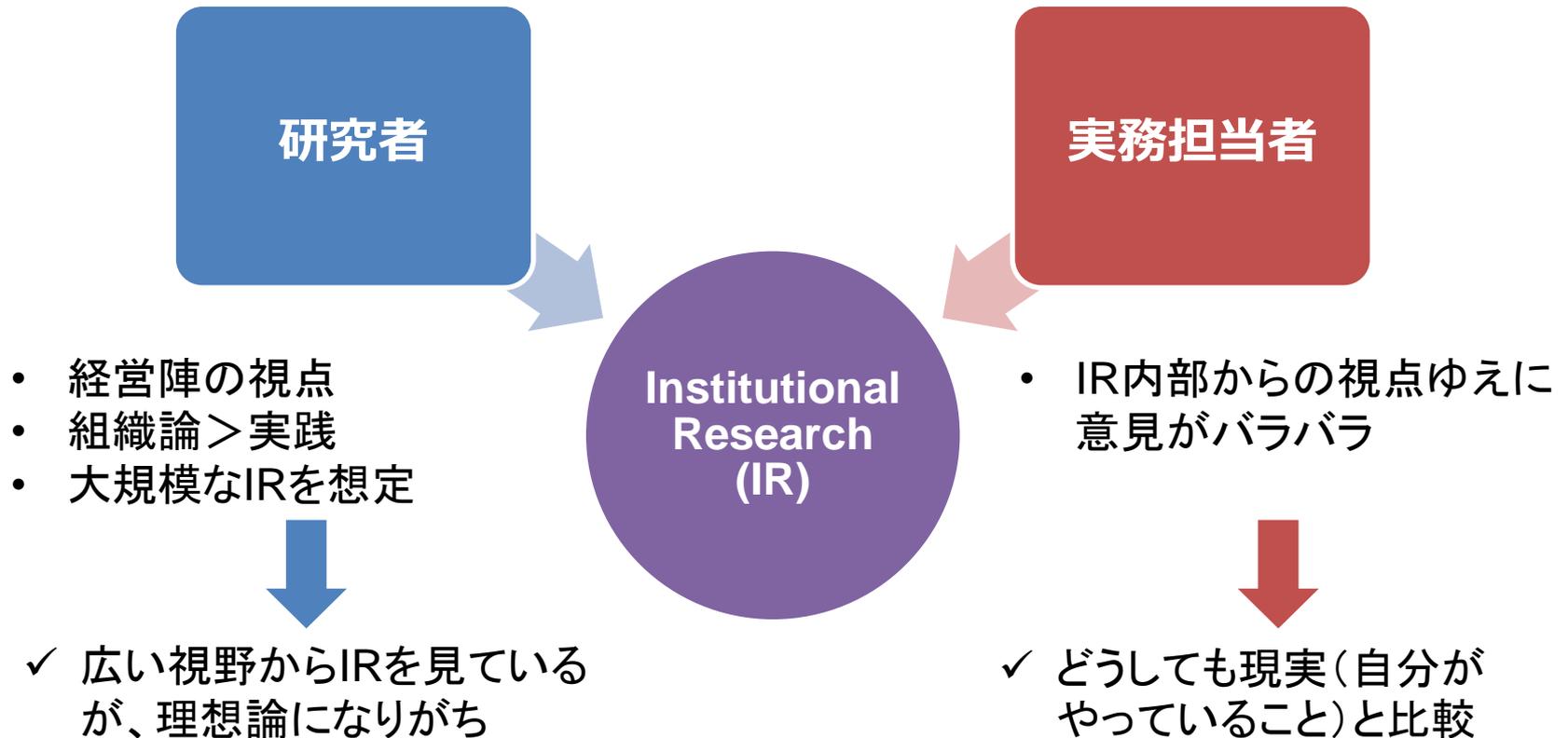
- IRからのレポートやデータ解析に基づく提案が、意思決定者に常に採用されるわけではありません（意思決定者にその義務は無い）。
- 情報提供を行った時点で何らかの支援を行ったと考えるべきだと思います。
- 改善に資する発見は、そう簡単にはできません。

まとめとして  
～IRを発展させるために必要なこと～



# 同じ「IR」を見ているけど・・・

□ IRに関する定義は未だ定まっていません。



誰に聞くかで答えが異なります

# IRを発展させるために（僕はこう思います）

チェックリスト	はい	いいえ
✓ 大学（特に経営陣）から必要だと思われていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
✓ 大学（特に経営陣）からのサポートはありますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
✓ 大学のデータは入手できますか？（データ入手関連の規定はありますか？）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
✓ 十分な予算やスタッフ数は確保できますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
✓ 学内データベースの構築予定はありますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

# まとめとして

---

## IRで働いているみなさんへ

- IRの仕事は大学の経営陣および他部署への**データ面からの支援**
  - **IRは脇役** → IRだけではPDCAを回せません。
  - **継続的改善の主役は、大学経営陣、学部、各学科、各部署**
  - 主役を引き立たせるのがIRの仕事であり、**IRは改善プロセスにおける「潤滑油」**であると思います。
- 通常業務を堅実にこなしていくことが、何らかの支援（意思決定支援等）に繋がっていくと考えています。

## 大学経営陣の先生方へ

- **大学のIR室を特徴付けるのはその大学の経営陣**
  - その大学のIR室を活かすも殺すも経営陣次第です。
  - IR室を作るだけでなく、**上手く使いこなす**ことを考えて下さい。
  - 大学を良くするために**IRに何をさせるかを考えることが重要**だと思います。

O

山形大学で学んで本当に良かった!!  
そう言ってもらえるために

IR

もっと学生や大学のことを知り抜いて

IE

継続的改善を支援する

# ありがとうございました

---

## 参考文献

- 鳶田敏行, 藤原宏司, 小湊卓夫 (2016) 「日米における中規模大学のIR 活動に関する事例研究」, 『名古屋高等教育研究』, 第16号, 287-304.
- 藤原宏司 (2013) 「米国におけるIR実践を通して考える日本型IR」, 『大学評価コンソーシアム勉強会』講演資料. [http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/documents/2013/ir2013b/h25-1112\\_Fujiwara\\_Kyoto\\_lecture.pdf](http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/documents/2013/ir2013b/h25-1112_Fujiwara_Kyoto_lecture.pdf)
- 藤原宏司 (2015a) 「米国におけるIR履修証明プログラムについての一考察」, 『大学評価とIR』, 1, 19-30. <http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php?page=lib001>
- 藤原宏司 (2015b) 「継続的改善活動における IR の役割」, 『第7回EMIR勉強会』講演資料.
- 藤原宏司 (2015c) 「IR実務担当者からみたInstitutional Effectiveness ～米国大学が社会から求められていること～」, 『大学評価とIR』, 3, 3-10. <http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php?page=lib003>
- 藤原宏司, 大野賢一 (2015) 「全学統合型データベースの必要性を考える」, 『大学評価とIR』, 1, 39-48. <http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php?page=lib001>
- Saupe, J. L. (1981). The functions of institutional research. Association for Institutional Research. <http://eric.ed.gov/?id=ED207443>
- Thorpe, S. W. (1999). The Mission of Institutional Research. Paper presented at the Conference of the North East Association for Institutional Research. <http://eric.ed.gov/?id=ED439640>